



# 新年を迎えて

しずない農業協同組合 代表理事組合長 片岡 博



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、御家族とともにご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃より当組合の事業運営に対し、ご協力とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は中国の武漢市において初めて確認された新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行し、日本経済のみならず、世界経済に大きな影響を与えた1年となりました。なお、昨年度の世界GDP成長率はマイナス4.4%の見通し予想と発表され、これは2008年のリーマンショックを遥かに超える値となっております。

この影響は農業情勢においても例外なく、各国における強固なロックダウン措置によりインバウンド需要の激減、国内においても緊急事態宣言が発令され、学校の休校、飲食店等への休業要請、不要不急の外出の自粛に伴い農産物の価格に大きな影響を与えました。

当組合の基幹作物の1つである黒毛和牛においてはその影響が特に大きく、直近3ヶ年の枝肉相場は去勢A15等級1kgで2600円台で推移していたのですが、昨年3月から下落を始め、4月には1600円台となり、それに伴ってホクレン北海道市場の素牛平均購買価格は去勢で74万円、メスで64万円と、昨年比較で10万円程度の安値で推移しています。枝肉相場は回復の兆しがみられるものの、新型コロナウイルス感染症が再度拡大してきている中で、市場動向は非常に不透明となっております。当組合の年間の販売金額は5億8千万円となっております。購買者のニーズに答え、販売価格を維持するために、高齢牛の

淘汰更新を積極的に進め、優良母系牛群の形成を進めてまいります。

昨年の他の農作物の状況として、水稲は日高管内は106の「良」でありました。春先はやや気温の低い日もありましたが概ね天候に恵まれました。7月、8月の稲穂が実る時期に天候不順が続き、収量、品質の面での不安がありました。タンパク質も含め高品質な米を収穫することが出来ませんでした。また、昨年度も純米吟醸酒「海桜丸」を醸造し、辛口に仕上がったフルーティーで豊かな味わいで、多くの町民の皆様にご愛飲頂いております。

ミニトマトは促成栽培については4月頃の曇天、7月、8月の天候不順により果実が肥大せず収量が確保できず、抑制栽培への切り替えの時期には気温が30℃近い日が続いたため、高温障害による着果不良で収量が減少し、kg単価こそ昨年の660円より9円高い669円だったものの、通年を通して収量が確保できませんでした。取扱金額は8億3千万円となり、青果全体では9億4千万円となりました。本年も1組の新規就農者の参入

が予定されており、ミニトマト部会が目標として掲げる10億円を目指して参ります。

酪農については、コロナ禍において学校の休校により給食への提供が出来ない状況が続いておりましたが、販売金額に大きな影響が出ることなく、乳価は98円と高い水準で推移し、販売金額は一昨年を超える3億7千万円の取扱実績でした。

基幹産業である軽種馬については、昨年の市場販売頭数及び販売金額が、411頭、40億6千万円で昨年より14頭、3億円の増加となり、平均販売価格は41万円増加の987万9千円となりました。北海道市場では、このコロナ禍において市場開催が危ぶまれる状況もありましたが、新型コロナウイルス感染症対策を行い、トレーニングセールこそ中止となったものの、他の市場については例年同様開催することが出来ました。総売上は過去最高の120億円を超える結果であり、活気に満ち溢れる一年となりました。また、昨年は11月3日に東京都大井競馬場で開催された「第20回JBCスプリント競走」で(有)藤沢牧場生産のサブノジュニア号が